

CHANDLER GAV19T プラグイン

フィジカル・モデリングしたギター・アンプ、スピーカー・シミュレーションと FX ラック

オーナーズ・マニュアル



Chandler Limited と提携して Brainworx が開発し、Universal Audio によってディストリビューションされています。

brainworx
music & media gmbh

CHANDLER
LIMITED

UNIVERSAL AUDIO

CHANDLER GAV19T amp プラグインは、他の UAD-2 プラグインと同様にインストールし、使用することができます。
システム要件等に関する詳細な情報は www.uaudio.com にて確認してください。

CHANDLER GAV19T プラグイン

フィジカル・モデリングしたギター・アンプ、スピーカー・シミュレーションと FX ラック



FX ラック

はじめに

CHANDLER GAV19T プラグインは、Wade Chandler Goeke によって設計された数々の賞を受賞したチューブ・アンプをモデリングしています。これは、オリジナルのチューブアンプ・サーキットを忠実にデジタルで再現しており、ステージ上で、リハーサルルームで、またはスタジオでギタリストをサポートするいくつかの重要なツールが追加されています。

FX ラック・ビューでは、ノイズゲート、ビンテージ・ディレイや 75 種類のレコーディング・チェーンと、オンボードのパワーソークを含むパワーアンプ・シミュレーターを使用することができます。

これらの機能は、すべて使用することも、また個別にバイパスすることも可能です。例えば、お持ちのプリアンプを使用し、プラグインのプリアンプをバイパスして、パワーアンプ・エミュレーションと、レコーディング・チェーン、FX を使用してレコーディングを行うことも可能です。

スタジオ・パワーアンプなどを経由して本物のキャビネットに接続し、リアルなアンプとしてプレイすることもできます。これは、平均的なアンプ・シミュレーターではありません。

このプラグインの主な用途について

1. DI から接続したギターをレコーディングし、内部のアンプ・シミュレーション、レコーディング・チェイン、FX ラックを使用し、DAW で編集、加工を行う。
2. ハードウェア・プリアンプと、パワーアンプ・シミュレーション、レコーディング・チェインを通してレコーディング
3. Apollo の Console を使用してスタジオのスピーカー、ホームステレオ・システム、ヘッドフォンや本物のギター・アンプやキャビネットに接続して最小のレイテンシーで自宅練習が可能
4. 本物のパワーアンプとスピーカーのセットアップを使用してライブ演奏
5. コンソールやインイヤー・システムに直接プラグインしてライブ演奏
6. 他のアンプ・シミュレーターでレコーディングした完璧なギタートラックをリアンプ



ベーシック

このプラグインは、本物の CHANDLER GAV19T チューブ・アンプを操作しているかのようにアンプ・セクションを使用することができます。お使いのコンピュータのオーディオ・インターフェイスを通してギターを接続し、チャンネル、ドライブ、トーン、インプット・ゲイン、バイアスを調整して…あとはギターのプレーをお楽しみください！

CHANDLER プラグインは、Apollo シリーズのインターフェイスで使用することを念頭に置いて開発されました。もちろん、CHANDLER プラグインを他の UAD-2 デバイスでも使用することが可能ですが、若干のレイテンシーが発生するので、リアルタイムでプレーしたい場合には、Apollo インターフェイスでの使用をお勧めします。

プロデューサーのトリックで、DI からのギター信号だけをレコーディングし、トラックリングを行う時に、コントロール・ルームでモニタリングするために本物のギター・アンプ(小さなコンボアンプ等)を使用することです。その後、他のパートと共に再生するときには、CHANDLER のギター・アンプを使用してください。それをコンピュータにレコーディングし、同時に本物のギター・アンプにも送ることができるようにギターのドライ信号をスプリットする必要があります。

DI 経由のドライなギター信号をもっとも低いレイテンシーと可能な限りハイクオリティでプレー、レコーディングするには、Apollo インターフェイスの Hi-Z インプットに入力するか、良い DI ボックスとマイクプリアンプに接続した後に Apollo シリーズ・インターフェイスの ライン入力に接続してください。

Console ソフトウェアのインサート・エフェクトスイッチを切り替える:

可能な限り低いレイテンシーでプラグインを使用するために、CHANDLER GAV19T プラグインを Console ソフトウェアに立ち上げると、(インサート・エフェクトを、Console で[REC]に切り替えることで)プロセッシングしたギター・アンプ・サウンドをレコーディングするかどうか切り替えることができます。トラッキング中はアンプサウンドでモニターしながらドライの DI ギター・サウンドをレコーディングしたい場合には、Apollo の Console ソフトウェア上で[MON]に切替えます。

プロセッシングされた音をモニタリングだけに使用することの利点は、後にミックスダウンを行うときにアンプやエフェクトの設定を自由に変更できることが挙げられます。出来上がった曲に合わせてゲインやディレイを増やしたり、減らしたりした方が良いと思った場合、即座に対応することができます。

プロセッシングされる前のギタートラックをレコーディングする利点は、ギタートラックをミックスするときに多くのプラグインを必要としない点です。通常のギター・アンプによるレコーディングの場合と同じように EQ やコンプレッションなどすべてセッティングした状態で、レコーディングを行います。これは、“欲しいサウンド”が決まっていて、何をすればよいか分かっており、後に微調整を必要としない場合、プラグインの消費率とエディットの時間を節約することができます。これはプロデューサーやバンド仲間も理解しているでしょう。



CHANDLER アンプ・セクションのコントロール (左から右へ)

POWER ON/OFF & STANDBY

GAV19T アンプ・プラグインは、本物のアンプのようにバイパスすることができます。この 2 つのリンク・スイッチを使用して、FX ラックを始めとするこのプラグインのプロセッシングのいずれかをバイパスします。

TONE STACK (Bass & Treble):

GAV19T のトーン・コントロールは、ECC803 管を使用した Baxandall スタイルのサーキットです。アンプのナチュラルなトーンを最高の状態で引き出すために Baxandall スタイルを採用しました。このセクションでは、トレブルブースト・ペダルが用意されています。ブーストは、かなり広い範囲に行うので、スムーズにアンプをドライブし、トーンにカラーを与えることができます。

SHAPE (Normal / Intense):

INTENSE に切り替えると、パワー・セクションのマッチングをアンバランスにします。それは、サウンドをよりアグレッシブにでき、アタックや粒立ちだけでなく、低中域を少し削ることができます。

DRIVE (Boost & Tone):

GAV19T のドライブ・セクションは、アンプのパワーアンプセクション上で動作するブーストとオーバードライブ・サーキットです。パワー・セクションでのディストーションは、心地よいサウンドが得られることが広く知られていたの
で、プリアンプでゲインとディストーションを加える代わりにパワーアンプを採用しました。ドライブには 2 つのコントロールがあります。

#1 : BOOST 量

#2 : BOOST のトーン

4 つの選択肢、またはバイパスから選択が可能です。選択できるトーンの種類は以下の通りです。:

- Treble Boost – トレブルブースト・ペダルから予想通りのサウンド
- Full range – 全周波数帯をブースト、しかし超低域はフィルタリング
- Aggressive – ハイミッド・レンジに重点を置きながらも広い帯域をドライブ
- Mids – 低中域に重点を置きながらサーキット全体をドライブ

INPUT (Gain):

インプット・ゲインを高く設定するほど、より多くのディストーションを加えます。インプット・モードを“HIGH”、または“NORMAL”を切り替えることで異なるインプット・ゲインの設定を試すことができます。

BIAS:

バイアスは、プリアンプ・チューブのバイアスにのみ影響を与えます。パワー・セクションとは別に全体的なトーンを微調整することができます。チューブがホット、またはコールドに動作するかについてと同様に、サスティンや周波数レスポンスに影響を与えるアンプのレスポンスを変えることができます。

#1 : 少し過剰にバイアスをかけています。

#2 : Marshall のバイアスに似ています。

#3 : Selmar のバイアスに似ています。

#4 & 5: 下にセッティングされ、サスティンやキャラクターを食わせます。

INPUT セレクター (High & Normal)

アンプの感度を大きく、または小さく切り替えることができます。“HIGH”は、歪みを多く得る場合に有効です。ハードウェアの GAV19T ではスイッチの代わりに独立したインプットゲイン・ジャックがあります。



CHANDLER GAV19T エフェクトラック(FX) のコントロール

1. NOISEGATE

‘CLOSED’ LED

この LED が点灯しているときは、ノイズゲートが閉じていることを示します。これは、THRESHOLD 値よりもギターのシグナルが低くなり、ノイズゲートが、RANGE コントロールで調節した値の分、アンプのアウトプット・シグナルを減衰させます。(上図では 50dB)

NOISE GATE ON / OFF:

ノイズゲートのオン/オフを切替えます。スイッチが上向き(“ON”)でノイズゲートが有効になります。

THRESHOLD:

ノイズゲートは、ギターからのシグナルが一定のレベルを下回るとアンプのアウトプット・シグナルを減衰させます。このレベルのことを“スレッシュョルド”と言います。オーバードライブしたアンプのノイズが削減される用にスレッシュョルドを調整しますが、ギターそのもののサウンドに影響が内容に調整してください。

RANGE:

インプット・シグナルがスレッシュョルドを下回った場合、アンプのアウトプット・レベルを減衰、またはミュートします。その減衰値をコントロールします。最大値ではアウトプットをミュートすることができます。

2. AMP FILTERS (pre / post 切替)

TIGHT フィルター

TIGHT フィルターを使用すると、DI ギター・シグナル(PRE)、またはプロセッシングしたアンプのサウンド(POST)、いずれかの低域をカットすることができます。

PRE: ギターのピックアップからのサウンドで低域がもたつく場合、アンプに入力する前にローエンドをフィルタリングすることができます。

POST: アンプ・セッティングで発生したローエンドをカットしたい場合、このスタジオ・クオリティのハイパス・フィルターを使用することができます。

OFF: TIGHT フィルターをバイパスします。

SMOOTH フィルター

SMOOTH フィルターを使用すると、DI ギター・シグナル(PRE)、またはプロセッシングしたアンプのサウンド(POST)、いずれかの高域をカットすることができます。

PRE: ギターのピックアップからのヒスやノイズが多く感じる場合、アンプに入力する前にハイエンドをフィルタリングすることができます。

POST: アンプ・セッティングで発生したハイエンドの一部をカットしたい場合、このスタジオ・クオリティのローパス・フィルターを使用することができます。

OFF: SMOOTH フィルターをバイパスします。



CHANDLER FX ラック のコントロール

3. レコーディング・チェイン（スピーカー・セレクション）

REC CHAINS:

シンプルに“REC CHAIN”プルダウンメニューをブラウジングしてスピーカーと完璧なスタジをセットアップを選択してください！

Brainworx のオーナー Dirk Ulrich は、過去 20 年の間に DREAM THEATER、TOTO、MICHAEL JACKSON 等をはじめとする多くのアーティストとプロデュースやレコーディングを行ってきました。ドイツの Brainworx Studio (www.brainworx-studio.de) では、これまでに 9 台しか製作されなかった NEVE VXS 72 コンソールの 1 台と最高級のアウトボード EQ やマイクプリアンプを所有しています。

この素晴らしいセットアップを使用して、CHANDLER アンプに使用するためにカスタマイズした膨大な“レコーディング・チェイン”を作成し、それをプラグイン・アンプの設定に使用することができます。75 種類もの完璧なマイキングや EQ されたギター・キャビネット等を 1 回のマウスクリックで簡単に使用することができます。

+ / - スイッチ（プラス/マイナス）:

REC CHAINS テキストボックスのプルダウンメニューを使用するか、“+/-”記号をクリックして REC CHAIN をブラウジングすることができます。

AUTO & BAR セレクション:

使用する曲に最高にマッチする REC CHAIN を探す場合、マウスで REC CHAIN を選び、2,3 フレーズ弾いた後にまた次の REC CHAIN を探すためにマウスを使うという煩わしい操作をしなくても済みます。

CHANDLER アンプ・プラグインにはオート・モードが用意されています。

パターン(1, 2 または 4 小節)を選択するとプラグインは DAW のテンポにシンクし、REC CHAIN のオートメーションを使用できるようになります。このようにして演奏を中断することなく、いくつかの REC CHAIN の音を 1, 2, 4 小節ごとに自動的に切替え、試すことができます。

スピーカーセットアップで聴きながらちょうど良い REC CHAIN が見つかったら、もう一度 AUTO ボタンを押し、オート・モードを停止し、必要な REC CHAIN を選択してトーンやゲインを調整して音作りを進めてください。

多くのアンプ・シミュレーターは、キャビネットとマイクを選択に違和感を与える場合があります。そしてこれらの不完全な設定は EQ や、プロセッシングによってユーザーが補完します。異なるマイク・セットアップのミックス、フェイズの調整、や EQ など…しかし、これらは簡単な調整ではありません。これらを正しく設定するには長年の経験が必要となります。

調整する必要があるのは、トーンやゲインで、アンプのチャンネルとセッティングに最高のサウンドを得られる REC CHAIN を選択しプレーするだけです。それはリコールでき、信頼があり、フレキシブルかつ即座に対応。レコーディング・チェーンにお気に入りが見つけられなかった場合、最後のセッティングとして独自のマイキングをしたキャビネットを使用することができます。(EMPTY PLAY VIA REAL CAB とラベリングされている))このセッティングは、Console に 1 台のチューブ・アンプのみの音を接続します。このサウンドがより良い効果を得る場合もあります。



CHANDLER FX ラックのコントロール

4. LO-FI ディレイ

ビンテージのストンプボックス・ディレイをモデリングし、限られた周波数帯域、リピートの高域減衰等、その代表的なサウンドを再現しました。その後、ミックスコントロールや DAW コントロールの BPM ベースのテンポシンク等の現代的な機能も追加しました。

もちろん、自分のギター・サウンドを出すためにコーラス、フランジャー、リバーブや、他のディレイのような外部のエフェクトも使うことができますが、我々のディレイによって素晴らしいサウンドが得られるプリセットがあることを試して頂きたいと願っています。

ディレイのタッチを聞かずにリード/ソロのサウンドをテストすることは多くのプレーヤーにとって現実的はないと考え、このエフェクトを加えました。我々は、このビンテージ・ディレイのサウンドが本当に気に入っています。

X2 & /2 (ディレイタイムの調整) :

/2 ボタン: ディレイタイムを半分にします。

x2 ボタン: ディレイタイムを倍にします。

最大 400 ms を越えない限り、両方のボタンを繰り返し使用することができます。

HOST BPM:

この LED パネルは、DAW から受信する実際のテンポを表示します。(4/4 表示をベースに BPM 表示)

DELAY ON/OFF :

ディレイのオン/オフを切替えます。スイッチが上向き(“ON”)でディレイがオンになり、下向きでオフになります。

TAP:

マウスで TAP ボタンをリズミカルにクリックすることで、ディレイタイムを調整することができます。DAW や BPM ベースのテンポに合わせてプレーしなくても、ディレイのテンポをギターのリフに合わせることができます。

TIME:

別の方法として TIME ノブを使用してミリ秒単位でディレイタイムを調整することができます。最大ディレイタイム : 400ms

MIX:

必要に応じて、ドライのアンプサウンドとディレイタイムを調整する MIX コントロールを使用してください。控え目なディレイの場合、約 10%程度、濃いディレイを必要とする場合は、50%以上の設定が必要な場合があります。

FEEDBACK:

FEEDBACK は、繰り返しの数をコントロールします。99% の設定は、ほぼ無限のディレイ・ループとなります。ロックのリードサウンドでの一般的な設定では 25% 前後であると言えます。

LO-FI:

LO-FI ノブを右に回すとディレイのフィードバック・シグナルの音質を下げる効果をもたらします。これはフィードバック・シグナルをローパス・フィルタリングと、歪みを与えます。



CHANDLER FX ラックのコントロール

5. INPUT GAIN:

CHANDLER プリアンプを強くドライブさせたい場合に、お好みに合わせてインプット・ゲインを調整することができます。ビンテージ・ギターのシングルコイル・ピックアップの中には、インプット・ゲインの補正が必要な低レベルのアウトプットの物があります。

ヘビーメタル・スタイルのハムバッカーの場合は反対です。DI シグナルがホットな場合や、CHANDLER アンプ・プラグインにインプットする前に他のプラグインを使用している場合は、インプット・シグナルを下げてくなくなるかもしれません。

標準的なギターを使用する場合、インプット・ゲインを“0”から始めることを推奨します。

6. POWER SOAK:

本物のパワーソークは、ギター・パワーアンプのボリュームを減らすために使用します。耳を保護し、近隣に迷惑をかけない音量で、アンプがクリッピングを始めるまでチューブ・アンプをドライブさせて、レコーディングを行うことができます。

クリッピングしたチューブ・パワーアンプは、ギター・アンプのシグナルに歪みや倍音を加え、ほとんどのギタリストが好むサウンドを出力します。パワーソークによってボリュームを抑えられたサウンドは、マスター・ボリュームで同じ音量に調整した場合と、サウンドが異なります。

我々は、CHANDLER のチューブ・パワーアンプの動作をモデリングしたので、アンプとパワーソークのマスター・ボリュームのセッティングを数通り試すことができます。(Chandler 自体にはマスター・ボリュームが無いので迷うかもしれません)

7. PRE-AMP と POWER-AMP のオン/オフ:

BYPASS PRE:

他のハードウェア・プリアンプを使用してレコーディングを行う場合、BYPASS PRE スイッチを使用して CHANDLER プリアンプを完全にオフにすることができます。

(チューブ、またはソリッドステートの)ギター・プリアンプとpCHANDLER アンプ・プラグイン

このケースでも内部のパワーアンプとスピーカー / REC CHAIN シミュレーションを使用でき、外部のパワーアンプやスピーカーを使わずにギターをレコーディングすることが可能です。

スイッチが上向き:プリアンプはバイパス(オフ)
スイッチが下向き:プリアンプはオン

BYPASS POWER AMP:

CHANDLER プリアンプの歪みのみを使用する場合には、パワーアンプをオフにすることができます。ギターではないシグナルを歪ませる時には、この方法が良いこともあります。現実的なギターのレコーディングを行いたい場合にはパワーアンプを使用したレコーディングを推奨します。(パワーアンプは、ギター・サウンドとして不可欠な要素を持ちます)



CHANDLER FX ラックのコントロール

8. SETTINGS / ツールバー:

UNDO / REDO:

CHANDLER プラグインで変更したコントロールを、最大 32 ステップでいつでもアンドゥ/リドゥすることができます。セッティングを元に戻したくなった場合はいつでもアンドゥを使用することが可能です。

SETTINGS (A/B/C/D):

CHANDLER アンプ・プラグインは、すべてのプリセットに保存することができる 4 個の内部セッティング (A/B/C/D) があります。1 プリセットにつき、最高で 4 個のアンプとエフェクト・セッティングのバリエーションを保存することができます。

同じアンプ・セッティングで、ディレイの濃さ、異なるディレイタイムの設定をしたり、プリセット内でリード/クランチ/クリーンを切替えたりすることができます。

これらの設定は、ほとんどすべての DAW でオートメーション化することができます。この方法によって、ドライなリズムサウンドからディレイがかかったリードサウンドに瞬時に切り替えることができます。

COPY / PASTE:

同じサウンドのバリエーションを作る場合、何度も一から音作りをする必要はありません。セッティング A のバリエーションをディレイ無しにして B に作ると仮定します。

- セッティング A を選択し、“COPY”をクリックします。
- “SETTING”セクションで B に切替えます、
- “PASTE”をクリックすると A のセッティングを再現します。
- ディレイをバイパスして終了です。

たったこれだけの操作で A と B はディレイの有無以外はまったく同じサウンドになります。

FX Rack:

スタンダードとズーム・ビューを切替えます。

ファクトリー・プリセット

CHANDLER アンプ・プラグインで多くのストラトやテレキャスター、レスポールのようなギターで完璧なサウンドが得られるようなプリセットをたくさん用意しました。ファクトリー・プリセットのすべてに A/B/C/D のバリエーションを用意しているのでぜひお試しください。

これは事実上ファクトリー・サウンドを 4 倍にし、多くの同じようなアンプ・セッティングでのフィルターやディレイのセッティング・バリエーションを楽しめるようになっています。

また、これらのプリセットは CHANDLER アンプ・プラグインを使用してオリジナル・サウンドを作成するためのスタート・ポイントとして使用することも意図しています。

オリジナルのサウンド & プリセットの作成

オリジナル・サウンドを作り始める時に調整するもっとも重要なパラメー

ターは DRIVE、TONE STACK と REC CHAINS です。

- TONE STACK (Bass、Treble) のコントロールを中心位置(12 時)に設定してください。
- TONE セッティングを調整し、HIGH 、NORMAL インプットの何方かを選択してください。
- GAIN や DRIVE をお好みの位置に調整してください。
- REC CHAINS を使用してプレーし、TONE STACK を変更することなくイメージの近いサウンドを選択してください。
- アンプの TONE STACK や DRIVE 伸び調整を行ってください。
- お好みに合わせてディレイやフィルター、ノイズゲートを加えて完了です。

アンプのセッティングや REC CHAIN によって異なるトーンを提供する膨大な選択肢は、様々な音楽ジャンルにとって素晴らしいサウンドを提供する組み合わせを提供できると確信しています。

CHANDLER アンプと他の UAD-2 プラグイン(ダイナミクス、エフェクト、ルームシミュレーションなど)と組み合わせて数えきれないほどのワールドクラスのプロダクションに対応するギター・サウンドを作成できます。ぜひお楽しみください。